

2017年9月24日(日)

説教:「主の声に聞き従う」

聖書:士師記8:22~35、詩編95:1~7

ギデオンは主に委ね、主の御声に聞き従う中で、大軍ミディアン人に勝利する。このギデオンの物語は、人は皆、主なる神に委ねて生きよ、御声に聞き従う者となれ、と教えている。しかし、ギデオンはこの後、おかしなことを言い出す。戦利品を私に持って来て欲しいと民に願い、ギデオンはその金や飾り物で、「エフォド」を作ったとある。このエフォドとは、祭司が着る衣裳のことで、このエフォドを自分の町に置いたとある。このことは、戦争で勝ち取った戦利品、金や飾り物で作ったエフォドを常に目に留まるところに置いて、戦争に勝利した証に酔いしれるギデオンを表している。命がけで勝ち取った戦争の勝利に、過去の栄光に酔いしれるギデオンの姿がある。

30 節「多くの妻がいた」というのは、一つの権力の象徴である。ギデオンは、「わたしはあなたたちを治めない」(23 節)と言いながらも、実質、イスラエルの権力者として立っていたことが分かる。さらに、ギデオンは一人の息子の名前を「アビメレク」と名付けたが、この名前の意味は、「我が父は王」と言う意味になる。あきらかにギデオンはイスラエルの王として君臨していたと思われる。

結局、人間が権力に魅せられる時、神の御業が見えなくなる。神の御声を聞こうとしなくなる。そのような状況が何をもちたらすのか？ 士師記は、目に見える神々、人間の手によって刻まれ、造られた神々、偶像に心奪われて行くイスラエルの人々を表す。ここは、人間の弱さ、人間の愚かさが記されている。

私たちは本来、どうあるべきなのか？ 目に見えない神を信じ、信仰を貫くことは出来るのか？ 詩編の言葉が教えている(詩編 95:1~7)。私たちの教会は、小さな群れであるが、一人ひとりが一生懸命に礼拝を奉げておられる。お一人お一人が出来ることを、出来るところから、礼拝が奉げられている。1 節からの詩編の言葉は、そういう意味が込められている。「主に向かって喜び歌おう。救いの岩に向かって喜びの叫びをあげよう。御前に進み、感謝をささげ／楽の音に合わせて喜びの叫びをあげよう。」まずは心から礼拝を奉げることの大切さをここで教えられたい。

そして「今日こそ、主の声に聞き従わなければならない」(7 節)というこのみ言葉は、聞き従うことの覚悟を問う。目に見えない神を信じ、信仰を貫くことは主の声に聞き従うことにある。すなわち、御言葉に聞くということである。(神谷)